

2012年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2013年3月17日
発行人 日本基督教団 関東教区
埼玉地区委員会
委員長 土橋 誠
飯能市柳町 23-8
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/
印刷所 (株)シャローム印刷

地区新年合同礼拝

一 区

七里教会 佐々木佐余子

二〇一三年一月一日(成人の日)に一区新年合同礼拝が岩槻教会で捧げられた。説教者は鈴木一義牧師(シャロンのばら)。「我、もはや生きるにあらず」(ガラテヤの信徒への手紙二章十五〜二十一節)と題しての説教は以下の通り。

「私、鈴木という人間の中にキリストが生きていると思っていたが、実はそうではない。自我がまだまだ死に生きていない。十七歳の時に洗礼を受け、六十年の歳月が流れたが、我、もはや生くるにあらずと思いつながら、イエス様を尊ばない自分に気づかされる。どの場面もキリストが生きていなければならない。キリス

トと共に歩んでいなければならない。世界で多数の人が飢えている。寄付金の問題ではない。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」(マタイ二十四章三十三節)のみ言葉が係っている。」(以上説教要旨、文責佐々木)

司式者は三井田忠昭さん(岩槻)、奏楽者は木津綾子さん(岩槻)、聖餐式は深谷春男牧師(東京聖書学校吉川)が奉仕された。

出席者は一三五名、二十教会。献金約一三三〇〇円は全額地区伝道のため、地区伝道会計に繰り入れられます。(教師委員会)

二 区

鳩山伝道所 藍田 修

埼玉地区二区新年合同礼拝が埼玉和光教会を会場にして行われました。礼拝開始前からかなりの雪が降る天候となりましたが、一九教会・伝道所、一〇四名の出席がある中、司式・野澤幸宏兄(坂戸いずみ)、奏楽・志賀幸子姉(埼玉和光)によって始められました。

子どもたちへの説教は、まず栗原共基君(武蔵豊岡)の聖書朗読があり、続いて江田めぐみ伝道師(三芳)に「少年ダビデの勇氣」と題して語っていただきました。



成人となる人への祝福の祈りは山岡創牧師(坂戸いずみ)に担当いただきましたが、今回、対象となる新成人の参加はありませんでした。

説教は野村忠規牧師(東松山)よりヨシユア記一章一〜九節「強く雄々しくあれ」と題して語っていただきました。

「試練や悩みは、神と私達との純粋な繋がりをつけるための神のご配慮である。神はどんな時にも私達を掴んで離さず、『強く雄々しくあれ』と励まして下さっている」とのお話をいただきました。

聖餐式は栗原清牧師(武蔵豊岡)に担当していただき、最後に野村牧師の祝福をもって礼拝を終了しました。

礼拝後、埼玉和光教会が用意して下さった豚汁ほか茶菓をいただき、互いに交わりの時を過ごしました。(教師委員会)

昨年八月、TV番組「二〇〇分de名著」で、「夜と霧」(ヴェイクトール フランクル著)が取り上げられました。第二次世界大戦中、ナチスによって強制収容所に送り込まれたユダヤ人精神医学者フランクが、戦後、収容所での過酷で絶望的な体験を綴った記録の書であります。番組を見ながら私は、

高校生の時に食事も喉を通らない気持ちでその初版本(一九五六年邦訳)を読んだ事を思い出しました。

人生とは何か、人間の生きがいとは何か、生きる意味は何かを問いつつ、しかし、如何なる困難な状況にあっても希望を失わず希望を見いだす…そこにこそ我々は生き続け、生かされている意味があるとの深いメッセージが込められていると思えました。

東日本大震災から二年。私たちは、絶望を味わい、その運命と向き合い、なお希望の光を求めながら生きる意味をどれ程模索し日常を取り戻そうとしている日々であるか 생각합니다。

受難節の今、復活の主に出会う希望に生きたいと心から祈ります。(茨木)



三 区

深谷教会 法元 聖親

一月十四日(成人の日)、昨秋に献堂式を行った北本教会の新会堂で三区新年合同礼拝が開催され、十五教会七十二名が出席しました。

午前十時三十分の合同礼拝開始前から降り始めた雪は、礼拝中も深々と降り積もっていましたが、会堂の中は外の寒さと反対に暖かく、竹内紹一郎牧師(深谷西島)による礼拝の説教で心燃やされ、子ども向け説教を通して父なる神さまがい



つも共に歩んでくださるとの祝福式では、北本教会の教会員

宣言をい である姉妹が成人祝福を受けただき られた後の挨拶で「こうして成(ヨシユ 人式を迎えることができたの(ヨシユ ア一・一 は、石川牧師はじめ教会学校の(十八) 先生そして教会の皆さんが育新しい一 て下さったおかげです」と年を希望 のお礼の言葉を述べられ、出席と喜びを 者一同大いに感激致しました。持って歩 礼拝後は、石川牧師の名司会み出す恵 で昼食をとりながら各教会ごみを子供 とに紹介をし合うなど楽しいたちと共 交わりのひと時を持ちました。に分ち 行き届いた準備をして私たちが迎えて下さった北本教会の皆さま、本当にありがとうございます。

追悼 山添順二牧師



神様に服従された牧師

岩槻教会 川中 真

二〇一二年十二月十三日 未明、山添順二先生訃報の連絡が御家族より入りました。私事になりますが、急性膿胸で緊急手術を受け退院した直後の出来事です。残念ながら葬儀に出席できず現在でも実感が湧かない中で、追悼文の依頼を受けました。

さて私は、山添順二先生のお名前を二十数年前、神学校時代に知りました。当時他教団の信徒であった私は、日本基督教団の教会・教職を殆ど知りませんでした。同級生が下谷教会で教会実習をしていたことから、温厚な牧師であることを聞いて、羨ましく思った事

を覚えています。

そんな山添牧師が、十数年後、私の転会先岩槻教会に招聘されました。かつての同級生が言っていた通りの牧師でした。隠退を思い止まり、会堂建築を行なおうとする教会にあえて赴任する、召された者としての姿がありました。嵐の中を出航するのと同じですが、そこに神様に服従した姿があったのです。

このような山添牧師でしたが、後任の私に何時も優しい言葉で労って下さいました。また、温厚でしたが、神学に関しては、厳しい口調になることがありました。譲れるものと譲れないものを、しっかりと持つことが大切だと気付かされました。世俗に服従するのではなく、「神様に服従する牧師」の姿を私たちに遺されて逝かれたのです。

按手を受けて

大宮教会 許 昌範



関東教区・埼玉地区と大宮教会の皆様 の愛の祈りと支えによって、この度、按手を受けました。沢山のお祈りを心から感謝いたします。

私は大宮教会と地区・教区の各教会に仕えながら開拓伝道を行ないます。さいたま市北区盆裁町には日本基督教団と他の教派の教会が一つもないのです。しかし、付近には学校や大きなマンション、会社やショッピングセンターなどが

牧師就任

草加教会 高田 輝樹



主の御憐れみの下、関東教区に拾われ、草加教会にて力を尽くす運びとなった。感謝。

草加教会には会堂も牧師館もない。平日に集会はできず、ひかり幼稚園の園舎で日曜だけの礼拝。牧師招聘は容易でない。他方、私は平日フルタイムで教団事務局に働き続けるので、住む所こそ要らないが活動は日曜に限定される。だから兼務での就任。「奇跡の一致」と関係者は呼んだ。

二月十七日(日)、秋山徹牧師の司式で就任式が執り行なわれ、代務者を務められていた田中かおる牧師からも祝辞を頂いた。両牧師とも、期せずして二つの全く同じ課題をご指摘下さった。①草加教会はひかり幼稚園の付属教会にならず、逆に教会の信仰が幼稚園を建て上げる。②牧師が平日に別の働きを担うことはチャレンジだが、実は教会が牧師を教団に派遣していること。以上の課題を恵みとして受け取ること

を百名近い参加者全員が確認した。

埼玉地区合同教師会

越生教会 西海満希子

埼玉地区合同教師会は二〇一三年一月二十二日(火)に、川越市見学というプログラムを加え、昨年会堂建築を終えて新装となった初雁教会を会場として開かれました。参加教会は二十四教会、参加者は三十名でした。

当日は午前十時半から開会礼拝を町田さとみ牧師の詩編一三三編「見よ、兄弟が共に座っている、何という恵み…」のみ言葉から始められました。続いて「川越の教会の歴史」についての講演を山岡磐教師から伺いました。

講演では、初雁教会が一九三二年ホーリネスの群れの教会として出発し(初雁教会と言う名は川越が初雁城下町であった事に由来した名です)戦争中、国家の弾圧下に解散して、再開され、山岡牧師は八代目の牧師として着任。二〇〇八年までの四十五年間主任牧師として副牧師の幸子夫人と共に伝道、牧会をされ、二〇〇九年から町田牧師に交代する、三年間の引き継ぎ期間を経て現在に至りました。その間、市内のカトリック、プロテスタントの教

会が連合して開催している市民クリスマス歴史や初雁教会が産み出した坂戸いずみ会の歴史などを伺い、古い伝統の秘訣と栄光を知ることが出来ました。

そのあとカトリック川越教会を見学し、うなぎ料理の老舗「小川菊」で食事をしながら、それぞれ近況報告をしました。午後は現在、旧蹟として観光名所になっている、川越で最も古い聖公会川越教会を見学しました。

そのあと、川越名物「時の鐘」「蔵造り資料館」「菓子屋横丁」などを三々五々、おしゃべりを楽しみながら散策を楽しみました。当日、天気予報は雨か雪になるとのことでしたが、帰るときには日差しもあり、一日の学びと散策を心に温めながら帰途に着きました。(教師委員会)



C S教師研修会

所沢みくに教会 最上久美子

今年度の地区CS教師研修会は一月二十六日(土)十時半から十四時まで、大宮教会において行われました。

講師は、教会教育主事として、「教師の友」紙面などでおなじみの江見淑子さん(箕面教会員)。「みんな育てよう子どもたち」のテーマの下、教会全体でCSを育てていく姿勢の大切さを語られました。



スタッフだけでなく、教会の方々のタラントを発掘することも大事。それは、聖書のお話をするとか、何かを教えるとかいうことだけではありません。例えば箕面教会では、ある人が「ドールハウス」を持っていると聞いたのでチェックしていき、後に子どもたちと見せてもらいに行き、楽しい交流のイベントができたとのこと。

また、大人と子どもが共に守る礼拝の一例として、実際に行われた聖夜礼拝のプログラムを紹介がありました。地域の人

信教の自由と平和を

求める「2・11集会」

川口教会 本間 一秀

や子どもの親も引き、司会者の進行で子どもたちと大人たちが次々とツリーを飾って礼拝を進めていく。いかにも楽しそうでした。全部その通りにすることはできないけれど、「この部分はうちの教会でも使えるな」などと、お話を聞きながら思いめぐらすひと時でした。

昼食を取りながらの分団では、講師の勧めに従い、自画自賛する「私の教会」を話し合いました。自分の教会の良いところを紹介することは、自分の教会の再発見でもあり、みなさん楽しく話しておられました。聞きながら、自分の教会でも参考にしたいと思えるところがたくさんある話し合いになりました。



教会の高齢化や子どもの減少などが問題になっていきますが、この熱心な同労者たちによって守られている限りCSは無くならないと、力強く思わせられた研修会でした。

先生は「資料から見る戦時下の教会」の実態をみると、日本の教会は、いつ頃から、そしてどうしてこんなに国家に対して追従するようになり、戦時体制にどっぷり漬かってしまっようになっってしまったのか」と、まず語られました。経済学者隅谷三喜男先生の論説を中心に、戦時下の教会の実態について、いつ頃からこの国の教会が、国家や政府に対する対峙の意識や関係を失ったのかを辿り直されました。「世のためにある教会」としての使命を改めて追い求めなくてはならないと考えさせられている。」と結論されました。しっかりと、社会情勢を見守りつつ『世のためにある教会』を目指して歩みたいという思いを新たにしたいです。(社会委員会委員長)

(教育委員会)

特集

聖学院大学

大学チャプレン政治経済学部教授

菊地 順



聖学院大学は一九八八年に上尾の地に一学部一学科で設立されましたが、その前身とな



聖学院大学は、学校法人聖学院に属する大学です。聖学院の元々の教派は、アメリカで生まれたデイサイプルス派(チャーチ・オブ・クライスト)で、その基は一八八三(明治十六)年に最初に来日した二組の宣教師夫妻によって築かれました。その後、一九〇三年に聖学院神学校が設立され、間もなく駒込の地に聖学院中学校、女子聖学院中学校が開設されました。現在、駒込には幼稚園から高等学校までがあります。

る女子聖学院短期大学は一九六七年に設立され、二〇〇一年に大学に合併されました。その後、聖学院大学は、学部増設、大学院設立等を経て、現在は三学部七学科の大学へと拡大し、学生約三千人が学んでいます。最も新しいところでは、昨年四月から人間福祉学部の中に「こども心理学科」が開設されました。これは、東日本大震災を覚える中であって、こどもの心のケアに仕えたいとの思いから始まったものです。

聖学院は、全法人のモットーとして「神を仰ぎ、人に仕う」という言葉を掲げていますが、大学はそれに加え「*Pietas et caritas*(学問と敬虔) および「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」をスクールモットーとし、キリスト教教育に取り組んでいます。聖学院大学は、教職員のクリスチャン率は五十パーセントを超え、各学

部・学科には一名ずつチャプレンが配属され、教育と学生指導に当たっています。また全法人にまたがるクリスト教センターが大学に置かれ、さまざまなクリスト教行事に携わっています。

カリキュラムとしては、一年次から三年次までキリスト教の科目があり、キリスト教の基礎からクリスト教の文化面全般にわたって学ぶ機会を提供しています。また、そのことをとおして、大学での礼拝や教会での礼拝に出席することを促しています。

大学での礼拝は、週四回持たれています。火曜日から金曜日まで、一時限目と二時限目の間の三十分間です。これは、学生・教職員で捧げる礼拝とし



2011 年度冬のリトリート



て「全学礼拝」と呼ばれていますが、一年間の平均出席者は百二十名ほどです。主にチャプレンや教職員が奨励をしますが、年に二度ほど学生による証しも行われています。できるだけ学生になじみやすい礼拝にしたいと考え、昨年度は月に何回かゴスペルを取り入れました。

また、普段の礼拝に加え、一年を通じてさまざまなキリスト教行事を展開しています。まず、入学式・卒業式といった式典は、すべて礼拝の形式で行われています。また春には「春のクリスト教週間」、秋には「秋のクリスト教週間」が守られています。これは、音楽会や講演会を中心としたもので、礼拝以外の形で学生たちにキリスト教に触れてもらう週間となっています。またクリスマスには、クリスマスツリー点火祭、クリスマス礼拝、クリスマスコンサートが守られています。さらに、そういった行事と共に力を入れてるのが、夏と冬に持



えてのボランティア活動も盛んに展開されています。

聖学院大学は、今年創立二十五周年を迎えますが、上尾の地にあつて、これからもますます埼玉地区・関東教区の諸教会と協力し、共に歩んでいきたいと願っております。

地区委員会報告

編集後記

●二〇一二年度第五回委員会
日時 十一月十三日(火)

会場 埼玉新生教会
出席 九名 欠席 二名

【主な報告】

◇委員長報告

*関東教区常置委員会報告

◇九月、十月の会計報告

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇伝道所・集会所等との懇談
会に関する件

十一月十三日、埼玉新生教会
で開催。今回はあらかじめ現
状についてのレジメを求め、
これに基づき懇談を行った。

懇談の中で、特に二つの集會
所は伝道所になることを希
望している。

◇地区予算に関する件

前回の地区委員会の協議を
受けて、会計より新たな予算
案が提示され、これに基づい
て検討した。

◇クリスマスプレゼントの件

基本的には郵送する。カード
は書記、現金は書留で会計よ
り送る。一部は直接問安をし
てお渡しする。

◇教育委員会委員選出の件

教育委員については委員会
で候補者を立てて交渉をし

ていただき、もし委員が満た
されない場合は、地区委員で
できる限りのサポートをす
る。

●二〇一二年度第六回委員会
日時 一月二十二日(火)

会場 埼玉新生教会
出席 十名 欠席 一名

【主な報告】

◇委員長報告

*教会・教師の情報

・按手

十二月一日、大宮教会・許昌
範牧師。

・逝去

十二月十五日、山添順二教師
(元岩槻教会・隠退教師)

・辞任(三月末)

小川教会・長尾邦弘牧師
毛呂教会・稲生勝也牧師

◇書記報告

・クリスマス互助金を実施し
た。七教会七名・隠退教師十
二名、総額十七万円。

・新年合同礼拝参加者数、三区
合計三〇八名・五三教会。

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇教区互助申請の件

教区教会互助『教師謝儀互
助』申請が鳩山伝道所、加須
教会、深谷西島教会より出さ

れ、地区として承認。
◇地区総会に関する件

・開会礼拝説教者は長尾邦弘
牧師(小川)、司式者は三井田
忠昭兄(岩槻)に決定。

・議員登録葉書を発送。締切は
二月十五日。

・推薦議員名簿、隠退教師・無
任所教師他を確認。

・各委員会各部報告の提出
二月十三日までに書記へ
メール添付で提出する。

◇地区予算に関する件

・各教会・伝道所の分担金は
前年度より総額二十万円、約
五パーセント増額する。

・各教会・伝道所の分担金一
覧表を一月中に送付する。

◇次年度の新年合同礼拝に関
する件

二〇一四年一月十三日(月・
祝)に行われる新年合同礼
拝(三区合同)の会場予定
だった聖学院大学のチャペ
ルは、聖学院大学の学事暦の
都合で使えない見込みであ
ることが判明。このため、新
会場として埼玉新生教会を
会場とする。

【主な報告】

◇委員長報告

*国際愛伝道所が四月に開設
される。開設者許昌範牧師。

*関東教区常置委員会報告

*関東教区「東日本大震災」被
災支援委員会報告

◇一月の会計報告

◇各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◇「地区総会」に関する件

・報告、決算・予算、議案、推
薦議員の選定、その他につい
て協議・決定。

◇地区ハンドブックの件

現在のハンドブックの作成
は二〇〇九年度版であり、改
訂版の発行の必要性も考え
られるため、この件について
次年度地区委員会で諮るこ
とに決定。

◇埼玉地区内規(選挙規則を除
く)に関する件

・内規一の伝道援助制度規定
は、伝道支援制度規定と名称
を変更する。

・内規二の慶弔既定のうち、教
師の入院のお見舞い金は一
万円から五千円に変更。

今年も埼玉地区五十九教
会・伝道所(+集会所)は区ご
とに新年合同礼拝を守り、新し
い年を歩み始めました。成人の
祝福ができたことは感謝です。
予想外の大雪に、帰り道に難儀
をいたしました。主の恵みの
うちに無事帰宅できました。

冬の寒さが続く中で、桜の開
花は例年より早いという予報
に少しほっとしています。

今年度は多くの教職者の計
報に接しました。永年主の尊い
ご用のために献身された牧者
の死を悼みます。これらの牧者
から伝えられたみ言葉を隣人
に伝え、育てられた信仰を証し
ていくことで、師の恩に報いた
いと思っています。

特集では、キリスト教教育機
関紹介の第二弾として、聖学院
大学に執筆いただきました。若
年層への信仰の伝承に、地域、
教会、大学がその取り組みを連
携し共有することの大切さを
感じます。

春の足音と共に、新しい教会
への活動の鼓動も聞こえてき
ます。埼玉地区での新しい年度
の活動を、総会で確認し、力を
合わせていきたいと思います。

訂正

前号の教会音楽委員会の報告
の中で講師の写真が誤っており
ました。お詫びいたします。

(三井田)

特集

婦人部だより

No.31

地区婦人部 全体研修会報告

東京聖書学校吉川教会
大熊 眞弓

苦しみも主に在って恵み！

婦人部委員長 滝川 英子

「キリストに結ばれ共に喜び、苦しみにあずかる」―フィリピの信徒への手紙に学びつつ―の主題の下、二年間地区婦人部に仕えて参りました。

丁寧な引継ぎをすることにしました。委員の役職の規定改正も一年前に総会に提案し、各教会で一年間協議戴いたので、責任の所在が明確になり働きやすくなりました。

会計では、東日本大震災を覚えて祈り、被災された教区、地区の教会、牧師館、関連施設を長期にわたって支援するため、「緊急災害対策基金」を新たに立ち上げ、二年間で奥羽・東北教区に各々十万円、関東教区のアジア学院と四教会に九万円の献金を贈ることが出来ました。

今まで地区婦人部の集會に参加していても、活動そのものにかかわりを持つことのない者同士が委員としての働きを託され、地区が三区に分かれてる中で婦人部は「もよろ七ブロック」に分かれて集會を持つことなどについて多少混同することもありました。その事から、自分の所属している教会が何区であり、何ブロックであるかを素早く知るために、書記はアイウエオ順に、教会名と区とブロックを表にして、受付に掲示することを思いつきました。

この二年間、研修会、委員会と会場の多くをお引き受け下さり、主に在る寛容と忍耐をもって会場を整えてくださった大宮教会の皆様のご奉仕に心から感謝申し上げます。大宮教会の上に主の豊かな祝福を祈ります。

今まで新旧委員の引き継ぎは二月に一回でしたが、九月までに新委員を選出いただき、秋から三回の委員会を合同委員会として開催し、各々の役職毎

（七里教会）

人がいること、どんなタイプが優れているかということはないことなどを、先生ご自身の経験も交えて、とても分かり易くお話ししてくださいました。

横山先生は、教団の認可神学校である「東京聖書学校」で教鞭をとっておられます。お話の一つひとつが、聖書の言葉に基づいていて、聞くもの一人ひとりに、み言葉がダイレクトに、ソフトに、お仕着せがましくなく、語られました。

午後からは、参加者全員が、自分を知るための手助けとなる自己診断ワークに挑戦し、その解説をお聞きしました。

本当に神様は、私たち一人ひとりを家族として、組み上げてくださるように、得意な点、不得意な点をそれぞれの人が作り、お互いに助け合い、愛し合えるように作ってくださいていることを、改めて感じる事が出来ました。

各個教会・伝道所・集会所に於いて、一人ひとりの婦人が豊かにつながり、神の家族を形成していくことが出来るよう、励ましてくださいましたことを、ここに感謝いたします。

（婦人部書記）

もより婦人会研修会

☆第一ブロック

「もより婦人研修会」より

川口教会 高橋 窈子

十一月十六日(金)、秋晴れに恵まれて大勢の姉妹の出席のもと、本間一秀当教会牧師による開会礼拝と、「小さき者を覚えて」と題しての講演があり、正午より親睦の時を持ちました。

講演は、先生が研修で訪れたフィリピンでの経験を以下のように話されました。

「先の大戦で、日本軍の侵略による人々の痛み苦しみや、現在の大資本家の搾取にあえぐ人たちの悲惨な状況等。

私たちは国家権力を恐れて、アジアや沖縄の人々に犯した罪を悔い、主に救いを乞い、平和を生み出す使命と責任を果たしてゆきたい。」

☆第二ブロック

「もより研修会を終えて」

東大宮教会 岡 アキ子

良い天気にも恵まれ、四十七名の姉妹の出席をいただき、「フィリピの信徒への手紙」から、当教会の山ノ下恭二牧師による「心豊かに生きる秘訣」の

講演を聞き、パウロが伝道の過程で受けた迫害と忍耐の生活の中で、神への深い信頼と愛に支えられ、満足して生きることが出来た秘訣を学びました。

その後お茶の時間には、各婦

人会の活動報告がなされましたが、半日の修養会でしたので、意見や祈りの時を持ってなかつたことが残念でしたが、感謝しつつ終わることが出来ました。

☆第三ブロック

「なすべきことはただ一つ」

シャロンのばら教会

名越 道子

十一月十七日(土)、棚橋千恵美牧師(越谷)をお招きして三区のもより研修会が開かれました。八教会、三十四名の参加でした。

信仰者の目標は、「永遠の命」であると示され、「礼拝の中心は、み言葉と聖礼典であり、教会は互いに苦しみを担い、許し合い、愛し合い、確信をもって祈り合うところである。たとえ、敵対する者があつても、十字架を見上げる時、罪許された者として神の恵みを知らされ、共に生きることを聖書は教えている。アドベントを迎える今、その先にある十字架

を見上げて、クリスマスと共に迎えたい。」と語られました。

第二部では千葉操子姉の指導によって全員の賛美がなされ、心が一つになる暖かい喜びの時となりました。感謝!

☆第四ブロック

「信仰のリハビリに

励みましよう」

上尾使徒教会 山崎 宏子

十一月十日(土) 講師野村忠規牧師(東松山)をお招きして婦人部研修会を持ちました。

信仰を深めて喜びをもたらす「信仰のリハビリ(訓練)」は、さらに高く、深く、豊かな喜びを求めて行う必要があることを教えられました。

今、そして今日が大切。誘惑の日々、神を畏れないものは自分の姿が判らず、自分が神になつてしまふ。自分の救いを達成するように努めなさい。新鮮な求道心を忘れずに、常に神の言葉を聴き続け、信仰のリハビリに励むことが大切である。喜びが少なくなつたら、リハビリを。メッセージを喜び、喜ぶ。共に喜ぶ。パウロの体験を通して話をしていただき感謝でした。教会の交わりとは、共にキリストのために苦しみ、その恵みによる交わり。イエスに倣うも

のとしての交わりです。伝道者の夢は自分の伝道の生涯の全ての労苦が無駄でなかつたと知らされる喜びの日が与えられていること、信仰に励みながら喜んで生きていく姿は必ず平安が与えられる。

野村牧師が絵を描き、笑いの中で楽しく終わりました。

☆第五ブロック

「トーンチャイムの音を

響かせながら」

飯能教会 平 伸子

十月十九日(金)、もより婦人会第五ブロックの研修会は飯能教会で行われました。

エスペランサの会(当教会婦人会)の有志が、トーンチャイムで子ども讃美歌「かみのお子の」を優しい音を響かせて演奏し、皆さんをお迎えしました。

土橋誠牧師(飯能)の「自分を無にして」の礼拝説教をお聞きし、会堂に響き渡る声をもって主を賛美しました。その後、飯能教会の菰田愷恵姉が毎週金曜日に地域の伝道のために行っているプログラムの「歌いましよう奏でましようさんびか」の活動を紹介されました。午後は菰田姉の指導によつ

て皆でトーンチャイム演奏の初体験をしました。初めての人が奏でた「あ、ベツレヘムよ」は見事そのもので、拍手喝采。花束贈呈ならぬみんなの笑顔贈呈で、和やかに会を閉じました。

参加者全員の意見を研修会に反映させるにはどうしたらよいだろう。そこから思いついたのが川喜田二郎の発想法KJ法でした。課題に対しカードを使って各々の意見を出すことで、参加者の達成感とまとめ易さ、一目で全体を把握できるなどの利点がこの方法で生かされました。

☆第六ブロック

「抱える環境」

志木教会 潮 純子

「キリストに結ばれ共に喜び苦しみにあずかる」の主題で潮義男牧師(志木)より講演をいただきました。参加者は九教会、五十名でした。

参加者全員の意見を研修会に反映させるにはどうしたらよいだろう。そこから思いついたのが川喜田二郎の発想法KJ法でした。課題に対しカードを使って各々の意見を出すことで、参加者の達成感とまとめ易さ、一目で全体を把握できるなどの利点がこの方法で生かされました。

教会は、共感し、苦しみ、共に喜びあうために、個人のあらゆる状態を抱える環境として何が出来るか、全員の考えが出されたことで、参加者の一致と成すべき目標が示され、そこに神のみ旨が現れたと信じました。各教会の参加協力に心から

感謝します。

☆第七ブロック

「恵みにあふれた研修会」

深谷教会 西岡まち子

九月二十九日(土)、五教会五十九名が集い婦人部研修会が開催されました。

開会礼拝では、当教会の法元聖親牧師より、信仰生活について学ぶことが出来ました。毎日聖書を読み、祈り、教会での交わりを通して信仰が深まり、主に従う証しの生活が豊かに送れることを教えられました。

当教会の保母光彦牧師の講演では、中学生から受けたインタビューより、自分自身の信仰の歩みが語られました。闇の中でもキリスト者は、光、灯として存在し、主が共におられるという確信を得て、日々過ごしてほしいというメッセージでした。

講演後、昼食を囲みながら最寄りの教会の皆様と心からの交わりが出来、祝福された研修会となりました。



アジア学院研修生 ホームステイ・ プログラム

このプログラムは、西那須野にありますアジア農村指導者養成学校(アジア学院・略称ARI)で学ぶために毎年三月末ごろアジア・アフリカから来日される約三十名の方々を、全国教会婦人会連合の小委員会の一つである世界教会運動委員会の主催で行う二泊三日のプログラムであります。

このプログラムのホストファミリーとして埼玉地区(関東教区)、東京教区、西東京教区、神奈川教区の協力の下に行われており、毎年、各教区では、三名から四名の来日間もない研修生を迎えています。今年度の埼玉地区は、四家庭で五人の研修生を迎えられました。

日本がはじめての研修生にとって、日本の家庭で過ごした経験は、八ヶ月の研修期間を過ごす中で有意義な時となつていくことと思います。

今年度は、六月二日(土)〜四日(月)の二泊三日、遠来の客を迎えて過ごしたホストファミリーの報告をしていただきました。

☆研修生を迎えて

越谷教会 川田 光江

我が家は、初めてマレーシアのエスターさんを迎えた。

「マレーシアでは一部を除いて、農業と手工芸生産に頼っている。わたしはARIで地域資源を持続的に管理していく方法を学び、得た知識が地域農民の利益になればと考えている」と語るエスターさんの希望を主は必ず叶えてくださると信じ、祈りを合わせた。

茶道、能楽堂、花田苑等、地域の人々と触れ合い、日本の生活を体験。教会では共に礼拝を捧げ、聖餐に与り、彼女の賛美の歌声に心が震えた。



食卓を囲み、共に主にある交わり
の時に感謝。
震災による甚大な被害を受けたARIの再建の上

生
の新しい希望と学びの上に、
主の豊かなお恵みがあります
ように。

☆毎年の教会の楽しい行事

所沢みくに教会 最上久美子

今年もフィリピンとミャンマーからの研修生二人を迎え、親しくお交わりができ、所沢みくに教会にとつて、毎年の楽しい行事となつていきます。若く元気なルウィンさんと静かで優しいウィルソン牧師でした。ルウィンさんからは、彼の民族「首長族」の習慣を写真等を見ながらお聞きしました。



日曜日は、朝のCSから参加して下さり、礼拝、愛餐会。午後は【日本の空港の発祥の地】所沢航空公園・博物館を、子供たちと遊びながら見学しました。

夕方からは恒例の高崎宅でのバーベキュー。教会の大人と子供が二十人近く集まって、賑やかに盛り上がりました。

☆アツ・カ・テイさんを迎えて

安行教会 齋藤 勝子

二年ぶりにミャンマーからアジア学院生を迎えての二日間とはとても和やかで心温まる時でした。



梅雨入り前でしたので雨にも降られず、二日目の街見学は、グリーンセンターで子供たちとミニ自動車に乗ったりして大いにはしゃいでいました。すらりとした細身のアツカ

テイさんは、我が家での食事会では、教会員の方々と日本の食べ物には多少好みを感じられましたが、がんばって箸を使う姿に、みんな大笑いをしたため、急激に場が和みました。翌日の礼拝後の交わりの時も、ミャンマーでの地域職員としての働きを熱く語ってくれました。恵みの時を共に分かち合えたことに感謝。

☆ジョセフ・コラ牧師と共に

久喜復活集会所 山野 裕子

パプアニューギニアのジョセフ・コラ牧師は、ホームステイ当日が三十歳の誕生日。夕食後ケーキで祝い、記念撮影をしました。

翌日は、神学生が英訳した説教原稿と英文の週報を準備し、賛美は英語も混ぜて、共に礼拝。愛餐会後は、近所の中学生たちと隣の公園でサッカーを楽しみ、また教会青年たちと鷲宮神社とスーパー銭湯へ行きました。

英語力は不足でも、各々の個性を発揮し、神の家族として交流しました。



四か国語を話すコラ牧師は、将来リーダーとして母国に仕えることでしよう。アジア学院を支える大切さを自覚しました。互いに出会いを感謝し、主の祝福を祈り合いました。良い機会が与えられ感謝。